

「ふかめる」～「思う」から「描く」へ～

義務教育課長

松永 仁

新たな年のスタートです。新鮮な気持ちで誓いを立てるとともに、それぞれの学校・園の教育理念を更なるふかめるための実践を構想していることと思います。

腹の下にくくりつけておく覚悟というものは常に一方的に、暗い想定や予測にばかり向けられるものではない。わたしがここで打ち明ける「覚悟」とは願いにも似た、祈りにも似た未来に向けての深い決意なのである。

(星野仙一著「夢 命を懸けたV達成への647日」より)

これは、星野仙一氏がプロ野球阪神タイガースの監督を引き受けるいきさつを語ったときの言葉です。

星野氏は、球団のスタッフとチームの将来について議論し、当たり前前を当たり前前にやることのできる意識付けを選手にしたそうです。「ネバー ネバー ネバー サレンダー(くじけない)」というスローガンのもと、チームづくりのビジョンを描き、決定・伝達・徹底・実行していくことを組織の基本としたのです。

また、星野氏は、選手の適材適所を考えたチームづくりをしていきました。どんな場面で役割を果たせる選手を補強するのか意図を持ち、試合においては、同じポジションであってもその選手ならではの持ち味をどう生かすかを考えて起用したといえます。

そして、選手の自信と慢心を見極め、「配慮はしても遠慮はしない」かわりをする中で、優勝できるチームをつくり上げていったのです。

東京大学大学院の佐藤学教授の著書「教師たちの挑戦」の中に次のような事例がありました。

N先生は、地域や家庭との連携を形式的なものではなく、実質的に連携を生むものにしたいと考えていました。そして、従来の授業参観を見直し、保護者も学習に参加できる機会に転換していけないだろうかと考えました。

国語の授業で詩の群読を行ったときのことで、子

供だけでなく、保護者もグループをつくり、「お祭り」という詩を選んで発表しました。「わっしょい」「祭りだ」と掛け声を響かせ、神輿をかつぐ人々の力強いエネルギーを見事に表現した発表に、子供たちは「すごーい！」と大歓声を上げて拍手を送ります。そして、子供たちは、どうしても「お祭り」の群読をしなくなり、翌日に挑戦することになったのです。

授業後に寄せられた保護者からの感想文には、詩を朗読することの楽しさ、親同士が協力し合って学習に参加することの楽しさ、そして、子供たちと一緒に学び合う経験の大切さが記されていました。

この日から、N先生の学級では、血縁関係から離れた大人と子供のかかわりが生まれ、保護者との連帯と協力に支えられた授業づくりが日常化していきました。



私たちは、こんな子供を育てたいという「思い」を持って学校づくりをしています。しかし、いくら思いを抱いても、その実現に向けての具体的なイメージを「描いて」いかなければ、思いは前に進みません。思いをふかめ、確たるビジョンを持ち、実践を伴ってこそ、描くと言えるのではないかと私は考えます。

本年度をまとめ、来年度を構想する時期となりました。今、私たちに求められているのは、デザインを描き、そこに自分たちで色を付け、創り上げていく着実な営みなのではないでしょうか。

星野氏は著書の中で次のように語っています。

「本気が、本気でないかが人生の分かれ目だ。やるか、やらぬか、『やる』が改革だろう。」

体験してこそ実感できる！

豊かな体験活動推進事業（地域間交流の実施）

都市化や少子化などが進むにつれ、子供たちの豊かな人間性や社会性などをはぐくむために欠かせない、人や社会、自然などと直接触れ合う体験活動の機会が乏しくなっています。文部科学省の指定を受け、都市部から自然豊かな地域に出掛け、体験活動を実施している「地域間交流推進校」の実践を紹介します。

ときめき神島子供探検隊

静岡市立安東小学校

都市部に生活し、文化的で便利な環境の中で過ごしている本校の子供たちには、生の自然の素晴らしさや厳しさと向き合う体験、また、そこで生活する人々の生活や思いに触れ、自分の生き方を考える体験が大変大きな意味を持つと考えます。

そこで、あまり観光化されていない三重県鳥羽市の神島を体験場所に選び、「ひと・しぜん・こころ」をテーマに「自然体験教室」を実施しました。

神島では、釣り・写真撮影・磯・太鼓・民宿の手伝いなど、それぞれの体験ごとにグループを作り、島の子供や老人、民宿や漁業関係者等と直接交流できるように、できるだけゆったりとした計画の中で過ごしました。



気軽に声を掛け、あいさつをしてくれるおばさんたちからは、人と人がつながり合う島の生活の温かさを、また、熱心に島の歴史を語

ってくれる老人からは、島への愛着を、神島小学校の子供からは、それぞれの違いとよさを学びました。

「静岡では出会った人になかなか話し掛けることができませんが、神島では、出会うたびにあいさつができて、気持ちよく過ごせました。民宿のおじさんやおばさんとても優しくしてくれました。」 - 茉椰 -
「神島で過ごしてよかったと思うこと、それは、自然です。神島は自然がとてもきれいでした。中でも、海がきれいです。磯で遊んだとき、水が青く透き通っていてごみ一つなく、驚きました。神島の人たちはごみを出さないようにすごく気をつけているのだなと思いました。」 - 拓人 -

静岡に帰ってから、神島の人々の温かさや自然の素晴らしさを「神島物語」という創作音楽に込めて、全校に報告しました。

温かさを実感、もう一つの大岡

沼津市立大岡中学校

校名が同じ、校章も同じ桔梗の花、校歌の作曲者も同じ長野県更級郡大岡村立大岡中学校との交流は、15年前に始まり、現在は地域住民同士の交流にまで広がっています。大岡村の生徒は、毎年、村のマイクロバスで沼津市を訪れていますが、本校の大岡村への訪問は7年前までさかのぼります。その3度目となる大岡村への訪問が、今年是实现しました。

「Let's enjoy OKTG. (大岡村交流体験学習)」のスローガンのもと、させられる活動ではなく、自分からかかわる活動にしたいとの生徒の願いを中心に据えた取組が始まりました。費用の一助として1か月にわたる古紙回収に取り組んだのも、その表れと言えます。

大岡村での活動は天候にも恵まれ、村の人々の温かさに感謝する3泊4日となりました。

1日目の大岡中同士の交流会では、卓球対決に盛り上がり、「世界に一つだけの花」を全員で合唱しました。違う環境に住む同世代の話に花が咲き、前から知り合いだったかのような親しみを感じました。2日目は、地元の人たちの協力で、田植えと藁細工、3日目は、班別大岡村学習で、名産であるそば打ちや岩魚のつかみ取りと串焼きを体験しました。十割そばの味に感激したり、捕った岩魚を串に刺すことができずにやってもらったり、魚嫌いの人が骨と内臓を残して、きれいに食べた...。驚きと感動の連続でした。

時には、班がばらばらになる場面もありましたが、体力のない仲間寄り添い励ましながら歩いたり、体調を崩した仲間を気遣いながら活動したり、優しく思いやりあふれる行動に、互いのよさを感じ取ることもできました。学校では学ぶことのできない体験が、自分たちの生活を見つめ直し、人の温かさに気づく機会となることを改めて実感した大岡村との交流体験でした。



「頼もしい先生」を目指して

初任者研修指導教員奮闘記

初任者研修の一層の充実を図り、拠点校方式が導入された本年度、345人の初任者が「頼もしい先生」を目指し、教員としての第一歩を踏み出しました。その成長を支えるため、多くの初任者研修指導教員が、それぞれの学校において工夫を凝らした指導を展開しています。

夢の道先案内人として

御殿場市立原里小学校 教諭 井上知可江

4月、「初任者研修の担当をお願いします。」と校長から辞令を受け取ったとき、正直なところ、2校兼務と4人の初任者の担当という新たな仕事への責任の重さに戸惑いを感じました。しかし、4人のフレッシュな初任者に対面し、私の気持ちは一変しました。念願の教職に就いた喜びと希望にあふれた顔。担任として過ごす、これからの1年間への意欲が、体全体から伝わってくるようでした。初任者をどう指導していけばいいの、初心に返って勉強しなければ、という思いでいっぱいになりました。

初めての参観授業を数日後に控えた日のことでした。「参観していただく授業を、このように進めてみたいのですが。」と指導案を手にした初任者から相談を受け



けました。指導教員の心の準備を超えた初任者の意欲にドキッとさせられました。よりよい授業を目指して、やる気満々の初任者の気持ちを大切に、的確なアドバイスをするためには何が必要なのかを考えさせられました。初任者への最高の支援の実現には、やはり、学校内の教員全体の力が必要です。さらに、初任者が、教員はもとより、子供たち、保護者、そして地域の人々から多くを学び取ることができるよう、人間関係の絆を深めていくための道先案内人が私の役目だと思うようにもなりました。

2校兼務もこう考えると有利に思えてきます。指導や助言をお願いする教員の人材が豊富ですし、両校とも、初任者研修のために学校体制を整え、意欲的に取り組んでいます。私は、両校のよさを取り入れ、初任者の悩みや不安を受け止め、初任者一人一人の個性を生かす研修になるように努力しています。初任者には、地域や保護者と子供たちの期待に応え、人間味あふれる教員になってほしいと願っています。

初任者研修も半ばを過ぎました。先輩教員の授業を参観した後、進んで質問をし、指導の在り方について熱く語る初任者の姿に成長を感じながら、初任者の夢の道先案内人となれるよう奮闘する日々が続いていま

初任者とともに

細江町立細江中学校 教諭 相津和秀

初任者との出会いの日は、育てる喜びとともに責任の重さをずっしりと実感する一日でした。

4月のある日、初任者の実践記録に「先生の授業は難しくてわからないと言われました。教材研究だって十分したし、板書計画も工夫したのに...。」と切々とつぶられていました。生徒たちから「わかった！ 楽しい！」という声がなかなか聞けなかった過去の私がよみがえってきました。

そこで、こんな赤ペンを入れてみました。「それは、あなたが期待されているからこそ贈られた大切な宝物ですよ。信頼される教師への第一歩を踏み出したのです。生徒の声に心から耳を傾け、生徒に学ぶ。その心が大切です。」

翌日の授業研究では、発問・板書の仕方や支援の在り方などを確認するとともに、「よくわかる楽しい授業」の条件として、「温かな人間関係に支えられたよりよい学級集団と教師との信頼関係」が大切であることを話しました。そのために、とことん生徒とともに過ごしてみるようアドバイスしました。

教職をスタートして以来、朝早くから職員室を飛び出し、元気いっぱい、生徒たちとあいさつを交し合い、放課後には汗にまみれて部活動指導をするなど熱心な指導をしている彼女に、敢えて生徒理解の大切さを語りかけました。また、私も彼女の奮闘ぶりに負けじと「元気」をふりしぼる毎日でした。

授業も教師主導型から脱皮し、生徒の学びを大切にしたい展開が少しずつできるようになってきました。先日、「先生の授業、すごくわかりやすいよ。楽しいよ。」と生徒が言ってくれたことを、うれしそうに語ってくれました。

試練の日々を一日一日乗り越えるごとに、確実に育っていくのがよくわかります。

本気の教師に育ってほしい。信念を持って果敢に挑戦する教師に育ってほしい。授業に、学級づくりに生徒とともに燃える教師に育ってほしい。そして、生徒の心のわかる教師に育ってほしい。これらは、すべて自分自身への叱咤でもあります。

初任者指導を担当する私は、大切な宝物を日々贈られていることを実感しています。

教育改革の実践を「ふかめる」

～平成15年度「学校教育の改善・充実に関する調査」結果から～

義務教育課は、平成15年度を「実践の成果と課題を確認しながら一層改革の深化・充実を目指す年」と位置付けました。本調査の結果からは、各学校において『『人づくり』2010プラン』の具体化が図られるとともに、学校評議員制度や自己評価システムの導入の拡大、少人数指導や個に応じた指導の重要性が意識化され、教育改革も一層「ふかめられて」いることが窺えます。

1 子供の側に立った学びの再検証を

21世紀にふさわしい教育を創造していくために必要なこととして、小中学校の82.7%が確かな学力の育成を、60.3%が共生の心や思いやる心の育成など心の教育の推進をあげました。また、それを具現化するために必要な制度の導入あるいは改善が必要なこととして、少人数指導、個に応じたきめ細かな指導（80.9%）、1学級あたりの児童生徒定数の改善（69.3%）、第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画以降の定数の一層の改善（54.6%）があげられました。

さらに、個に応じた指導方法の工夫改善のために、特に重点をおいている項目としては、多様な学習形態・少人数指導の導入などによる指導方法等の工夫が74.8%と最も高く、各学校で個に応じたきめ細かな指導の実践に鋭意努力する姿勢が窺えます。

一方、問題解決的な学習を重視した単元の構想（一昨年より11.7ポイント減）、子供の思いや願いを生かした体験的な活動や作業的な学習の設定（一昨年より21.3ポイント減）が年々低下しています。

確かな学力の育成には、子供にとっての魅力的な授業が不可欠であることは言うまでもありません。問題解決的な学習も、子供の思いや願いを生かした体験的な活動も、子供の学びを充実させる大事な要素であるはずで

す。確かな学力が一人一人の子供に身に付く教育が求められています。そのためには、子供にとっての学びが真に充実したものであるかどうかを検証する視点こそが今必要なことではないでしょうか。



2 実践をふかめるための質的吟味を

本年度、朝読書、読み聞かせ等の読書タイムの実施率は100%に達しました。早期に目標が達成された点は大いに評価すべきことですが、同時に質的吟味を加えることは実践を深める意味で大変重要です。

(1) 『『人づくり』2010プラン』の浸透

『2010プラン』の提案を受け、すでに取組の具体化を図っている学校が37.6%、さらに31.1%が自校ならではの『2010プラン』を作っていることなど積極的に取り組もうとする姿勢が窺えます。

このように、成果主義の意義が理解され、独自の数値目標を掲げ、成果と課題を確認しながら教育活動の実践を深めようとする学校が増えてきています。

実践の質の深まりを検証しながら、一層積極的に取り組む学校の増加を期待します。

(2) 学校評議員制度、学校自己評価システムの導入

今年度、学校評議員制度を導入している学校は82.3%（17.3ポイント増）、学校自己評価システムは、90.6%（23.8ポイント増）と飛躍的に増加しました。

この結果から、学校の情報を積極的に公開し、説明責任を果たすとともに、家庭や地域の人々の意見を反映した開かれた学校運営が進んでいることが窺えます。更なる質的な充実を期待します。

(3) 地域人材の導入

51人以上導入している学校が177校（昨年134校）、延べ人数501人以上導入している学校が42校あり、県内で20,000人強、延べにして100,000人以上の方が地域人材として導入されています。年々拡大されてはいますが、今一度何のための導入なのか、導入によってどんな成果が得られたのか十分検証する時期に来ていると感じます。

教育改革は、21世紀を生き抜く子供のためにあるものです。子供の視点に立って、日々の教育活動の質を吟味することが実践を深めることになると思います。長期的展望に立ち、子供の学びの充実を最優先した特色ある学校づくりの一層の推進を期待します。

魅力ある学校づくりをめざすために

—平成15年度静岡県教育研究奨励賞—

静岡県教育研究奨励賞は、創設以来40年目を迎え、県内教職員の資質向上・指導の改善等のために多大な成果をあげてきました。本年度は、全体の応募数は20件減少しましたが、小学校教諭からの申請が増え、学校の中核となって活躍している教職員の申請が数多くありました。本年度の特徴として、日々の保育や授業実践、総合的な学習の時間の取組、個に応じた指導方法の工夫や特色ある学級経営・教育課程に関する研究など、幅広い分野にわたる研究実践が多く見られました。

1 申請件数と優秀賞、優良賞の授与件数

氏名	幼稚園	小学校	中学校	高校	養護教育
申請件数	20	171	69	9	21
優秀賞件数	1	5	2	1	1
優良賞件数	6	52	22	3	7
授与件数計	7	57	24	4	8

2 優秀賞受賞者(幼・小・中関係 8件)

氏名	幼稚園・学校名	研究題目
太田 充代	天竜市立二俣幼稚園	「先生あのおね」と話せる人間関係作りと指導法を探る
和田 精吾	富士市立岩松北小学校	子供が思いや願いをかなえる過程で学びのあふれる総合的な学習の時間
平松 祐	御殿場市立御殿場小学校	総合的な学習の時間の取り組みを生かした社会科授業の構成
小池 敦子	焼津市立和田小学校	学び続ける子を育てる外国籍児童適応教室の経営をめざして
太田 秀子	浜北市立浜名小学校	よりよく生きる力としての内面に根ざした道徳性の育成
白井 伸博 伊藤さとみ	浜北市立倉玉小学校 浜北市立北浜東小学校	感動いっぱい『発掘! 宮口大事典』
横山 邦雄	御殿場市立御殿場中学校	望ましい集団活動の育成を目指した、生徒が主役の学年・学校行事の運営について
石田 直美	細江町立細江中学校	学ぶ力を育む学校図書館



太田充代教諭



和田精吾教諭



平松 祐教諭



小池敦子教諭



太田秀子教諭



白井伸博教諭



伊藤さとみ教諭



横山邦雄教諭



石田直美教諭

3 優良賞受賞者(幼・小・中関係 84件)

(1) 幼稚園(6件)

氏名	幼稚園名	氏名	幼稚園名
和田 千春	御殿場市立原里西幼稚園	長尾 光恵	静岡市立安倍口幼稚園
岩本紗矢佳	袋井市立西幼稚園	三浦 綾子	磐田市立磐田西小付属幼稚園
戸田ひろみ 石塚智香子	浜北市立北浜中央幼稚園	小島 久枝	森町立森幼稚園

(2) 小学校(55件 養護教育部門入賞者を含む)

氏名	学校名	氏名	学校名	氏名	学校名	氏名	学校名
渡邊 衛	函南町立丹那小	加藤 悦子	熱海市立第一小	寺本 貴啓	熱海市立熱海中	岩田 広行	御殿場市立御殿場小
加藤真利子	富士市立今泉小	清水 英美	富士市立原田小	稲葉 智則	裾野市立深良小	金子 英生	戸田村立戸田小
小川 宏世	伊東市立旭小	鈴木 良恵	大仁町立大仁小	原田 浩光	静岡市立清水駒越小	鈴木 勉	掛川市立中央小
山田 誓午	島田市立島田第三小	村田 一史	島田市立島田第五小	白井 久雄	掛川市立第一小	大石 茂人	相良町立地頭方小
平川由加里	大東町立佐束小	佐野 晶子	大東町立大坂小	三田久美子		小澤 知夏	菊川町立河城小
芳野 信行	菊川町立内田小	黒柳 哲也	静岡市立清水船越小	蒔田富士弥		鈴木 秀聡	大須賀町立横須賀小
飯田 真也	福田町立福田小	水野 希樹	三ヶ日町立西小	岩田 智乃	焼津市立港小	小野田順子	浜北市立新原小
金原 正巳		山崎 浩子	袋井市立袋井東小	山田 一弘		岡本 裕子	浜北市立浜名小
岩田 雅彦	袋井市立袋井南小	井口 悠子	浅羽町立浅羽北小	小池 良子		田中美佐子	
牧野里江子		内山 忠久	細江町立気賀小	小林 逸子	森町立宮園小	平川 明美	浅羽町立浅羽南小
藤井 善子	春野町立犬居小	金子佳奈子	豊田町立豊田東小	斉藤美智子	磐田市立磐田北小	石野ちよ子	浜松市立初生小
松山 淳	湖西市立知波田小	磯部 恭史	水窪町立西浦小	大石麻衣子	引佐町立金指小	加藤 博文	浅羽町立浅羽東小
小松 尚子	湖西市立岡崎小	坂井千世子	佐久間町立山香小	川崎 恭子	佐久間町立浦川小	名倉 文康	春野町立熊切小
江間 孝枝	浜北市立伎倍小	伊藤 豊彦	浜北市立内野小	杉 美香	浜北市立中瀬小	古橋麻紀子	浜北市立北浜北小
鈴木 裕子	浜北市立北浜南小	金田 智世	豊岡村立豊岡南小	袴田真由美	龍山村立龍山北小	宮崎 清美	中伊豆町立八岳小
星野 明子	磐田市立磐田北小	上沢智香子	森町立宮園小				

(3) 中学校(23件 養護教育部門入賞者を含む)

氏名	学校名	氏名	学校名	氏名	学校名	氏名	学校名
櫻井 雅彦	御殿場市立高根中	宮崎 克久	函南町立函南中	小川 典延	伊東市立対島中	佐藤 一朗	島田市立六合中
飯沼 裕		萩原 彩子	本川根町立本川根中	山本貴美子	静岡市立大里中	杉浦 弘卓	焼津市立大村中
鈴木 真	浜北市立浜名中	沖汐 和子	浜北市立北部中	古木 哲也	浜北市立北部中	木下 久一	浜北市立北部中
影山直男樹	福田町立福田中	神田 憲興	福田町立福田中	鈴木 英司	福田町立福田中	鈴木利江子	雄踏町立雄踏中
山下 篤志	佐久間町立浦川中	木村 泰子	磐田市立南部中	平野 尚美	浜北市立倉玉中	松田 真和	水窪町立水窪中
松島 賢 永田 大介	浜北市立北部中	藤井 隆行	三ヶ日町立三ヶ日中	相場 誠	竜洋町立竜洋中	浅野 慶子	天竜市立竜川中

「心のノート」の活用推進について いつでも・どこでも・なんどでも

小学校3年生を担当しているH先生は、どのように「心のノート」を活用することができるのかを考えていました。子供の意見を聞く中で、道徳の授業以外でも使ってみたいという子供の願いが見えてきました。

そこで、H先生は「心のノート」の置き場所を教室の戸棚から子供の机の中に変え、いつでも見ることができるようにしました。

ある日、学級のRさんが「何のために学校に来るの?」と何気なくつぶやきました。H先生は、Rさんの疑問を学級の子供と一緒に考えていくことにしました。

「みんな、どうして学校に来るのかな?」とH先生が投げ掛けると、子供たちは「勉強を一人でやるより、みんなで話し合っただけ答えを見つける方が楽しいよ。」「友達がいなかったらさびしいよ。」と思いを伝えます。

そのとき、「ぼく、心のノートの『ひとりじゃないからがんばれる』の言葉が好きだ。」とMさんが言いました。すると他の子供も「失敗したとき、みんなからの励ましでやる気が出た。」と続きます。



数日後の朝のことです。いつも「心のノート」を家に持ち帰っているSさんが「先生、心のノートの『朝がくると』の詩を読んで!」と言いました。H先生の周りに子供が集まり、一緒に読みました。

「ねっ、見つけたよ。学校へ何のために来るのか。」というSさんの声に、うなずく子、首をかしげる子と反応は様々でした。H先生は、読み聞かせの時間に、もう一度この詩を音読してみました。Rさんのノートには、次のような感想が書かれていました。

「いろいろなものを作ったおとなの人は、とてもがんばったと思う。わたしも、この詩の中のおとなにまけないようにしたい。だれかのやくにたちたい。だから、がんばって友だちとべんきょうしたい。」

H先生は、子供が自然に手に取り、子供の気付きをうながす「心のノート」の魅力を実感しています。

「いつでも・どこでも・なんどでも...」

「心のノート」が活用され、子供の心に響く取組が一層広がっていくことを期待しています。

教育法規がわら版 No. 26

Q

「懲戒処分の公表基準」が改定されたと聞きましたが、どのように変わったのか教えてください。

A

平成13年9月19日に制定された「懲戒処分の公表基準」が、平成15年11月26日に改定されました。

懲戒処分の公表は、教職員の非違行為に対して地方公務員法に基づく懲戒処分を行った場合、教職員への周知によりその再発防止を図るとともに、人事管理の透明性を高め、説明責任を果たすことを目的としています。

今回の改定のポイントは次のとおりです。

これまで、処分状況を6か月ごとまとめて教育広報に掲載し、報道機関へ資料提供してきました。これからは、すべての懲戒処分について、処分後速やかに公表し、同時に、各市町村教育委員会・学校に対し公表内容を伝達し、指導の徹底を図ることになりました。

公表内容等では、公表項目に性別を追加し、所属の種別の項目について、小学校・中学校・高等学校の場合には、県内の東部・中部・西部の地区別を明示します。処分事由は、情報公開条例に基づく公開請求の例にならい、処分の概要を公表します。公表の方法は、報道機関への発表または提供により行われます。

なお、原則として、所属名、氏名、住所等、個人が特定される情報は公表しませんが、故意又は重大な過失による事件・事故で社会的影響が極めて大きいと判断される場合には、これらの項目を公表する場合があります。

本年度、信用失墜行為、特にわいせつ行為の根絶のために様々な取組をしてきたにもかかわらず、不祥事が続いています。このことは、社会全体の学校及び教職員に対する信頼を著しく失墜させるものです。

他人事ではなく自分の問題としてとらえることが大切です。綱紀粛正及び服務規律の保持のため、教職員一人一人が自らを厳しく律し、充実した教育活動に取り組んでください。

富国有徳 発行 / 静岡県教育委員会義務教育課
しずおかの挑戦。 TEL 054-221-3140

静岡県



古紙配合率100%再生紙を使用しています。